

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 吉川市立学校給食センター運営委員会	
開 催 日 時	令和5年12月18日(月)	13時25分から14時10分まで
開 催 場 所	吉川市学校給食センター多目的会議室	
出席委員氏名	(学 校 長) 南中学校長 福嶋正悟 (P T A会長) 吉川小学校P T A会長 中里哲也 東中学校P T A会長 菊池沙耶香 (市議会議員) 文教福祉常任委員 伊藤正勝 (学識経験者) 流通経済大学教授 坂野喜隆	
欠席委員氏名	(学 校 長) 吉川小学校 窪田和彦 (P T A会長) 北谷小学校P T A会長 昼間瑞季 (学識経験者) 学校医 秋本憲一	
事務局・担当課 職 員 氏 名	教育総務課長 大瀧和寛、 給食センター 所長 青柳乃り恵、主任 北原真希、主事 守屋愛加	
会 議 次 第	1 開 会 2 委嘱書交付 3 あいさつ 大瀧課長 4 委員紹介・職員紹介 5 議 題 (1) 令和5年度学校給食実施報告について (2) 食物アレルギー対応食の実施状況について (3) 令和6年度学校給食計画について (4) その他 6 閉会	
会 議 の 公 開 又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開	
傍 聴 者 の 数	なし	
会議資料の名称	・令和5年度吉川市立学校給食センター運営委員会名簿 ・令和5年度学校給食実施報告 ・食物アレルギー対応食の実施状況 ・令和6年度学校給食計画 ・令和5年度学校給食アンケート集計結果	資料1 資料2 資料3 資料4
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録	
会議録署名委員	伊藤正勝委員、中里哲也委員	
その他の事項		

議事内容（発言者、発言内容、経過、決定事項等）	
青柳所長	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 あいさつ 大瀧課長あいさつ</p> <p>4 委員紹介・職員紹介</p> <p>○会長・副会長選出 互選（事務局提案）により、会長は福嶋委員、副会長は菊池委員に決定</p> <p>5 議事 (1)令和5年度学校給食実施報告について 【関係資料】 資料1 令和5年度学校給食実施報告 資料4 令和5年度給食アンケート集計結果 (事務局から説明)</p>
青柳所長 守屋主事	
坂野委員	<p>(質疑応答) なまずの日献立について、今年度は和歌山県産の養殖なまずを使用したと説明があった。地場産を推進している一方で、吉川市のなまずを使用しなかったのはなぜか。また、給食アンケートの中で量が多いと感じる児童生徒が多いとの結果が出ているが、食生活に対する認識が変わったなど理由はあるのか。</p>
青柳所長	<p>提供できない理由として、市内で給食センター提供分（約7千食）を賄える事業者がないこと。また、給食センター内では、施設の構造上、生魚の加工が出来ないことがあげられる。 アンケート結果で、「量が多い」と感じる生徒が増えたことについては、現在、各児童生徒に応じた必要量を提供していると認識している。</p>
北原主任	<p>理由のひとつとして、コロナ禍での生活に加え、今年は猛暑で外活動する時間が少なくなり、食が進まなくなったのではないかと想定できる。今後も各学年に応じた適正量を提供していきたい。</p>
福嶋会長	<p>児童生徒にも好き嫌いがある。現在、教員が残さず食べるようにと指導するのは、難しい面もある。</p>

伊藤委員	<p>適正量を盛るということで、残す児童生徒が増えているのであれば、あらかじめ、自己申告で量を減らすなどの方法をとればよいと考えるが、実際の取組みについて伺いたい。</p>
福嶋会長	<p>学校での給食時間は非常に短く、食べる時間を確保するためには、配膳の時間を短縮することが必要である。そのため、一人ひとりに対応する時間がとれないため、基本的には実施していない。</p>
青柳所長	<p>各クラスで対応は異なるところではあるが、学校給食センターとしては、児童生徒それぞれが喫食する適正量を知るため、提供した分を盛りきるよう対応してほしいと考えている。</p>
伊藤委員	<p>美味しい給食を提供することが残菜を減らす一番の方策だが、アンケートを見ると小食の児童生徒も相当数いる。残菜対策は難しいと考える。</p>
北原主任	<p>(2)食物アレルギー対応食の実施状況について 【関係資料】 資料2 食物アレルギー対応食の実施状況 (事務局から説明)</p>
青柳所長	<p>(3)令和6年度学校給食計画について 【関係資料】 資料3 令和6年度学校給食計画 (事務局から説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
坂野委員	<p>県栄養士が実施している食育指導について、どのような時間帯や教科で行っているか伺いたい。また、食育活動を積極的に実施していただいているが、学校側で負担感はないのか。</p>
青柳所長	<p>食育指導については、資料3の(1)食育指導計画「教科」の欄に学年ごとに記載させていただいている。</p>
福嶋会長	<p>県栄養士が行う食育指導は、小学校は教科の中で45分、中学校は給食時間を利用して15分単位で実施している。</p> <p>また、2点目の学校側の負担についてであるが、県栄養士が実施している食</p>

育指導とは別に各校でも食育の取り組みを行っている。今年度、南中学校は県の「生きる力を育む食育指導モデル校」等の指定を受け、「食農教育」の取り組みの一つとして、中学校2年生が、9月に新潟県魚沼市で稲刈り体験を行った。生徒は美味しい米を作るための方法を学び、稲を育てる苦労や楽しさを感じることができた。また、新米の魚沼産こしひかりを食べた時の美味しさは格別であり「食べることは生きること」を実感する機会となった。食育は、大切な学習のひとつとして捉えており、学校側として負担は感じていない。

なお、県栄養士が毎年実施している食育授業は、子どもたちに食のベースを作るものであり、その取組に感謝している。

(4)その他

青柳所長

6 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年 12月21日

署名委員 伊藤 正勝 自署

署名委員 中里 哲也 自署